

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和5年 3月 13日

事業所名: 氷川学園児童デイサービス事業所風楽

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		活動に合わせた環境設定を行っている。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		設置基準を満たした上で、必要に応じたスタッフの配置を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○		現在、チェックして不要なものを取り除く、動線を意識して、設置場所を変更するなどの物理的な整理統合を進めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		日々、清掃と消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		活動終了後に、必ずスタッフミーティングを行い、改善点を考えている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		年に1回、必ず評価を実施し、寄せられた意見に対する対応を行っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		年に1回、必ず評価を実施し、改善内容や改善目標を具体的に考え、公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		まずは、保護者の評価、自己評価によってあがっている課題や改善点に取り組み、長期的には、第三者による外部評価も検討したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		事業所としてスタッフ全員で研修に参加した場合は、全員で振り返りを行い、自由に参加できる研修の情報も共有している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		診断書、発達検査の結果、成育歴の記録、身辺自立についてのチェックリスト、保護者記載のニーズ整理表、活動の様子記録など、様々な情報をもとに、スタッフ全員で話し合っ、作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		診断書、発達検査、言語や運動、感覚面の検査結果は、できるだけ提出してもらっている。成育歴の記録、身辺自立についてのチェックリスト、できるだけ記入してもらっている。身辺自立についてのチェックリストは、保育園に協力してもらうこともある。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		児童発達支援ガイドラインに沿った内容で作成するよう努めている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		連絡ノートに「個別支援計画についての支援内容」の欄を設けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間計画に沿いながら、その都度、課題や目標に合わせて、スタッフ全員で話し合っている。	
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間計画を作成するときに、内容を変化させている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		「個別から集団へ」という流れを意識し、発達段階に合わせた集団での学びを意識して作成している。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼で、各児の目標と支援の内容を確認し、その後、集団で行う活動のリハーサルを行いながら役割分担を決めている。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後に、必ずスタッフ全員で振り返りを行い、各児についての気づきを出し合っている。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		スタッフそれぞれが担当児についての記録を書き、他のスタッフに回覧して、情報共有し、他に気づきがあれば書き加えてもらっている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		少なくとも6ヶ月に1回はスタッフ全員で計画についての現状を話し合い、見直しを行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		現在、児童発達管理責任者のみ出席しているが、日々のミーティングや記録で、担当者や状況について確認を行っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		送迎時のやり取りや担当者会議を通じて、保育園との連携している。相談支援事業所を通じて、保健師と情報共有することもある。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				該当児なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				該当児なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		送迎時のやり取りや担当者会議の中で、現状だけではなく、就学を見据えた内容について情報を交換している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		要望があったときは、活動の様子について文書を作成し、保育園や保護者を通じて提出してもらっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修に参加したり、コンサルテーションを受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		利用児のほとんどが保育園や幼稚園に通っているため、特定の園との交流の必要性は低いと思われるが、ニーズに合わせて参加を選択できるようにした上で、広く地域に開かれたイベントへの参加の機会を作ることを考えていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		八代圏域の通所支援事業所の会議に出席し、情報共有を行っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡ノート、親子療育、電話、面談など、様々な手段で、情報共有を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか		○	保護者交流会で、ペアレントプログラムの説明と体験を行った。	年間計画にペアレントプログラムの予定を組み込み、希望者を募って実施したい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に説明を行い、文書も渡している。変更になった場合にも、文書を配布し、おたよりに記載している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらひ及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童発達支援ガイドラインに沿った内容で計画を作成し、目標や支援の手立てについては、具体例をあげながら説明している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的な面談や親子療育でのやり取り以外に、電話や面談の機会を作って迅速に対応している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		年間計画にのっとり、事業所主催の保護者交流会や茶話会を実施している。	独立した保護者会は、現在のところ存在しない。必要性について保護者の意見を聞き取っていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れがあった場合は、児童発達管理責任者が、迅速に対応するよう努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月おたよりを発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報が入ったファイルは、鍵付きの棚の中に保管し、持ち出さないようにしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		現物、写真、イラスト、書き言葉、話し言葉など、相手にとってわかりやすいと思われる手段を使用するよう努めている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		コロナ禍で中止が続いているが、法人が地域に開かれた行う行事に、参加を選択できるようにした上で、参加の機会を作っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○	法人全体としてのマニュアルは策定済みである。	法人全体としてのマニュアルは玄関に置いて、閲覧できるようにするとともに、保護者への周知を行う。事業所としてのマニュアルを策定し、訓練の実施を急ぐ。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		児とスタッフで、火災と地震の避難訓練を行っている。また、暴風や虫刺されの対応訓練をスタッフだけで行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		連絡ノートや送迎時のやり取りの中で、健康状態の確認を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				食事の提供は行っていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		毎月の職員会議で、事例の確認を行い、詳細や対応を記録している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		法人全体で行う研修に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○		法人内に設置予定の身体拘束委員会で、「どのような場合に身体拘束を行うか」について組織的な検討を行ってきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表: 令和5年 3月 13日

事業所名: 氷川学園児童デイサービス事業所風楽

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			活動に合わせた環境設定を行っている。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○			設置基準を満たした上で、必要に応じたスタッフの配置を行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		トイレ以外の場所には手すりがなく、玄関にスロープもないが、必要があるときはスタッフが介助を行っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			活動終了後に、必ずスタッフミーティングを行い、改善点を考えている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			年に1回、必ず評価を実施し、寄せられた意見に対する対応を行っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			年に1回、必ず評価を実施し、結果を配布している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○		まずは、保護者の評価、自己評価によってあがっている課題や改善点に取り組み、長期的には、第三者による外部評価も検討したい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			事業所としてスタッフ全員で研修に参加した場合は、全員で振り返りを行い、自由に参加できる研修の情報も共有している。	
適切な	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			診断書、発達検査の結果、成育歴の記録、身辺自立についてのチェックリスト、保護者記載のニーズ整理表、活動の様子の記録など、様々な情報をもとに、スタッフ全員で話し合っ、作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			診断書、発達検査、言語や運動、感覚面の検査結果は、できるだけ提出してもらっている。成育歴の記録、身辺自立についてのチェックリストも、できるだけ記入してもらっている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			年間計画に沿いながら、その都度、課題や目標に合わせて、スタッフ全員で話し合っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			年間計画を作成するときに、内容を変化させている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇中は、活動の目的を設定した上で、調理や外部施設の利用など、授業日にはできない活動を行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
支援の提供	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			「個別から集団へ」という流れを意識し、発達段階に合わせた集団での学びを意識して作成している。	
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		集団で行う活動については、必ず内容や役割分担を確認している。	各児の目標と支援内容の確認も行うように改善していきたい
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			支援終了後に、必ずスタッフ全員で振り返りを行い、各児についての気づきを出し合っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			スタッフそれぞれが担当児についての記録を書き、他のスタッフに回覧して、情報共有し、他に気づきがあれば書き加えてもらっている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			少なくとも6ヶ月に1回はスタッフ全員で計画についての現状を話し合い、見直しを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか		○		児童発達支援ガイドラインに沿った内容で計画を作成し、目標や支援の手立てについては、具体例をあげながら説明している。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			現在、児童発達管理責任者のみ出席しているが、日々のミーティングや記録で、担当者と状況について確認を行っている。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保護者を通じて情報共有している。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					該当児なし
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			ほとんどが同事業所の児童発達支援の利用者であり、情報共有ができている場合が多い。新規の利用者の場合は、保護者を通じて情報共有している。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか					該当児なし
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			研修に参加したり、コンサルテーションを受けている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○		ニーズに合わせて参加を選択できるようにした上で、広く地域に開かれたイベントへの参加の機会を作ることを考えていきたい。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○				八代圏域の通所支援事業所の会議に出席し、情報共有を行っている。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノート、送迎時のやり取り、電話、面談など、様々な手段で、情報共有を行っている。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○		ペアレントプログラムを年間計画に予定を組み込み、希望者を募って実施したい。	
保護者への 説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に説明を行い、文書も渡している。変更になった場合にも、文書を配布し、おたよりにも記載している。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			定期的な面談以外に、電話や面談の機会を作って迅速に対応している。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			年間計画にのっとり、事業所主催の保護者交流会や茶話会を実施している。	独立した保護者会は、現在のところ存在しない。必要性について保護者の意見を聞き取っていきたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか			○	苦情への対応の体制は、重要事項説明書に記載し、契約時に説明を行っている。	実際に苦情が寄せられたことはないため、対応したことがないが、周知が不十分である可能性があるため、おたより等で周知に努める。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月おたよりを発行している。	
35 個人情報に十分注意しているか	○			個人情報が入ったファイルは、鍵付きの棚の中に保管し、持ち出さないようにしている。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			現物、写真、イラスト、書き言葉、話し言葉など、相手にとってわかりやすいと思われる手段を使用するよう努めている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○		コロナ禍で中止が続いているが、法人が地域に開かれた行う行事に、参加を選択できるようにした上で、参加の機会を作っていきたい。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	法人全体としてのマニュアルは策定済みである。	法人全体としてのマニュアルは玄関に置いて、閲覧できるようにするとともに、保護者への周知を行う。事業所としてのマニュアルを策定し、訓練の実施を急ぐ。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			児とスタッフで、火災と地震の避難訓練は行っている。また、誤嚥や虫刺されの対応訓練をスタッフだけで行っている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			法人全体で行う研修に参加している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○		法人内に設置予定の身体拘束委員会で、「どのような場合に身体拘束を行うか」について組織的な検討を行っていきたい。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか					食事の提供は行っていない。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			毎月の職員会議で、事例の確認を行い、詳細や対応を記録している。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)